

手をつなぎ、心通わす 誘・融(とけ合う)老上

滋賀県草津市	●活動名 老上ふれあい農業高校	●関係する学校名 草津市立老上小学校
--------	--------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 12 年度	学校運営協議会	指定・設置日	平成28年4月1日	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	授業補助	—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	ICT機器活用	有	有
参考URL	http://www.oikami-p.sk.ed.jp					
●連絡先	草津市立 老上小学校		☎ 077-562-0440			



●活動の概要・経緯
平成10年に、地域住民が、農業体験を通して青少年の健全育成を図る目的で「老上ふれあい農業高校」を設立し、当時の公民館活動から活動が始まった。平成12年度からは、学校の総合的な学習を中心とした地域連携の学習に関わっていただき、米作り、野菜作りを共に行うことで、自然体験学習や収穫の喜びを体験的に学ぶ活動が進められてきた。以後、20年にわたり本校の児童との連携事業が続いている。活動内容は、田植え、草取り、稲刈り、縄蒾い、収穫祭と年間を通じた米作り体験、また、季節の野菜や果物の植え付けや収穫、そして地域の方を招いての交流事業などに及び、当該学年の子どもたちも毎年楽しみにしている。他にも、地域住民ボランティアによる花の植栽や、本の読み聞かせなどの学校支援や、学校と連携したまちづくりセンター主催の地域事業での防災学習やお茶体験事業への児童参加など、学校を核とした取り組みが地域全体で継続して行われている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成12年度から開始した「老上ふれあい農業高校」は、子どもたちの農業体験・自然体験をサポートすることで、米や野菜を作る楽しさ、収穫の喜びを知り、自分たちが口にする食材に感謝の気持ちが持てるようになることを目的に活動している。推進委員が積極的に取組を計画し、地域住民と協働する姿や、児童に対して丁寧に指導する姿に熱意が感じられ、農業の大切さを学ぶだけでなく、世代間の交流も図られている。学校では、単なる農業体験の活動だけで終わらせるのではなく、支援者を学校に招き、収穫した作物と一緒に調理したり、食したりする活動や、学習の成果や感謝の気持ちを表現する場を作っている。その活動を通して交流を深めることで、学習のみの関わりにとどめず、地域に戻った時にも声をかけあえる関係ができ、地域の活性化にもつながっている。そして、この取組の継続は、子どもたちがふるさとを愛し誇りを持つとともに、豊かな人間性を育む貴重な場となっている。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては、地域コーディネーターが学校と連絡調整し、プログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいなども意識することで学校と地域の取組がつながるようにしている。また、農業高校の畑には行事予定や年間の作業を掲示するホワイトボードが設置されており、いつでも地域住民が確認できるようになっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会での熟議により、学校と地域のテーマが統一され、毎年協議を深めながら活動についての見直しを図り、より良い活動にしている。結果、まちづくりセンター主催事業への子どもたちの参加率も高まり、大人と子どもが共に学び合い、交流を深め合う関係づくりが促進されている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

推進委員の代表は発足当時から22年間農業高校に携わっており、世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、親子間で農業高校の話ができるなどの、家庭教育的な要素も担っている。また、小学校の支援のみならず、畑で作った作物を毎週卸売センターで販売し、得た収益で畑を維持するための管理費や肥料購入等に充てている。退職後の楽しみとして児童の成長を見守る活動や、地域住民同士の交流の場となっていることもこの活動が20年間継続している要因と考えられる。また、子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増えることで愛着を感じ、郷土愛が醸成され豊かな人間性を養うきっかけになる取組となっている。

●その他

老上ふれあい農業高校は、まちづくりセンターでも活動し、未就園児から祖父母までの3世代交流の場ともなっている。児童は、米づくりを通して、情報収集・整理・分析などの過程の中で、他者との協働により社会を取り巻く課題を見つけ、解決する力を育んでいる。



熱心に縄蒾いを指導して



地域住民と一緒に田植え